

# 事業報告

講座名	環境学習講座「つのしまの自然・ダルマギク観察会」		
日時	平成28年11月6日(日) 10:00～13:50		
場所	つのしま自然館、夢崎波の公園 牧崎風の公園(下関市豊北町)	参加者数	45人

## 1 スケジュール

10:00～10:05	開会(つのしま自然館)
10:05～11:05	講義「角島の自然環境について」 「角島の植物たち」
11:20～11:40	角島灯台付近で植物観察
12:00～12:50	昼食・休憩(牧崎風の公園へ移動)
13:10～13:50	牧崎風の公園でダルマギク等の観察
13:50～	アンケート記入、閉会

## 2 活動内容

午前中は、つのしま自然館で、豊北町自然観察指導員会の小林知吉氏から「角島の自然環境について」と「角島の植物たち」の講義を行い、次に夢崎波の公園付近に移動し、植物観察を行う予定であったが、小雨で風が非常に強かったため、灯台付近で観察会を行った。午後からは、牧崎風の公園に移動し、豊北町自然観察指導員会の小林氏、藤岡氏の指導でダルマギク等を観察した。なお、風が非常に強くなり予定したコースでの観察が困難になったため早めに切り上げた。

### ◇ 講義

#### ◆ 「角島の自然環境について」 豊北町自然観察指導員会 小林知吉氏

PWPにより説明(別添資料参照)

#### 【地質】

##### ・柱状節理

島内のあちこちで四角形や六角形の柱状節理が見られる。柱状節理とは岩体が柱状になった節理で六角柱状のものが多く、五角柱状や四角柱状のものもある。玄武岩質の岩石によく見られ、マグマの冷却面と垂直に発達する。

- ・牧崎はマグマ(溶岩)が固まってできたもので、マグマの噴出口跡も見ることができる。

(火山活動によりできたもので須佐のホルンフェルスとは異なる)



#### 【植物】(季節ごとに見られる主な植物を説明)

##### ～春～

- ・ルリハコベ……ハコベの名がつくがサクラソウ科。

昔は島内で多く見られたが、盗掘が多く、現在は保護しながら自生地を広げている。

- ・ハマウツボ……カワラヨモギの根に寄生する植物。
- ・ハマボス……海岸の岩場に自生し群がって咲く。赤い茎が特徴的である。
- ・イワタイゲキ……岩場に群れて咲く。潮風にも強い。

#### ～夏～

- ・ハマユウ ……別名ハマオモト。長門市二位が浜が自生地 of 北限
- ・ハマナタマメ……黒潮（対馬暖流）が流れる海岸沿いに自生

#### ～秋～

- ・ダルマガク……白色と紫色の花がある。
- ・ホソバワダン

#### ～冬～

- ・スイセン …… 1月～2月が見ごろ。夢崎の灯台周辺に多い。

### 【海の生きもの】

- ・ユリヤガイ……2枚貝の形をしているが、巻貝の仲間。直径5mm程度。黒潮流域の伊豆半島から沖縄に分布し、見島(みしま)や角島に多い。海藻のフサイワヅタの上にすんでその液を吸う。  
角島では3種確認（世界では9種）
- ・タツナミガイ……ウミウシ等の仲間。
- ・モクズシヨイ……クモガニ科。夜行性で海藻や貝殻などを体に付け擬態化している。
- ・サケガシラ……深海性で平成17年くらいからよく見られ大きい物で長さ2m。  
リュウグウノツカイとよく似ているが異種である。（深海性で）
- ・ゴマフアザラシの迷入(2010年)
- ・ツノシマクジラの迷入(1998年9月11日漁船と衝突)  
2003年にDNA鑑定で新種と確定

### ●鳥類

- ・ミサゴ …… 全長54-64cm。翼開張150-180cm。魚を捕食する。獲物に狙いを定めるときに空中で止まることができる。英名：オスプレイ
- ・ハヤブサ……猛禽類。春と秋に良くみられる。（渡り鳥の群れを狙うため）
- ・ヤツガシラ……トサカが特徴的なバードウォッチングに人気の渡り鳥。3月中頃～4月上旬に観察することができる。
- ・ミヤマカラス……越冬のため飛来する冬鳥。数千羽の群れで北西に移動。

### ●その他

- ・天空の島……海霧がかかり、見れる現象。5月位に現れることが多い。
- ・幻日 ……太陽と同じ高度の太陽から離れた位置に光が見える大気光学現象  
秋に起こりやすい（3年～数年に一度程度見れる現象。）

### ◇ 講 義

#### ◆「角島の植物観察」

豊北町自然観察指導員会 小林知吉氏

PWPにより説明（別添資料参照）

#### 【春の植物観察会】

スイセン、トウバナ

ハマウツボ（カワラヨモギに寄生している（寄生植物）。浜辺より山側に自生）  
ハマハタザオ、ハマボッス、  
イワタイゲキ、ハマウド（ウド科で2m位まで大きくなる）  
スナビキソウ（蜜はアサギマダラが好む、春の北上ルートになっている）  
ルリハコベ（瑠璃色のきれいな花のため、盗掘されている）  
ホタルカズラ、クルマバアカネ、カモガヤ、キョウリグサ  
フナバラソウ、マンテマ、  
クサフジ（4年前までは角島でも確認されたが現在は確認できず）  
ノアザミ、マルバシャリンバイ、タツナミソウ、ノダケ、ムラサキカタバミ  
ハマエンドウ、ミヤコグサ、イタチハギ、スイカズラ、ヘラオオバコ

### 【夏の観察会】

ハマヒルガオ、ハマオモト（ハマユウ）（彼岸花の仲間）  
ハマゴウ（紫色の花で繁殖力が強い）、ハマナタマメ

### 【秋の観察会】

ホソバワダン、タンキリマメ、ダルマギク、ツワブキ（秋を代表する花）  
ノブドウ、ハマボッス（秋に種子をつける）、ハマゼリ  
ムサシアブミ（5月に開花、秋に赤い実が付く）

## ◇ 夢崎波の公園（角島灯台付近）での植物観察

※雨が降ってきたので、急遽予定を変更し、灯台付近の観察に切り替えたが、植物がほとんどなく灯台の説明が主となった。

- ・角島灯台……明治9年に「灯台の父」と呼ばれるリチャード・ヘンリー・ブラントンの設計による最後の灯台で、日本海では初めての洋式灯台。140年前に建てられた灯台で現存するものはほとんどない。

（震災や戦争で大半が破損したため）

対馬から出航すると、海上からはすぐ角島灯台が確認できる。霧や雪等が少ないので日本に2基しかない無塗装の灯台である。この灯台は、歴史的文化的価値が高いAランクの保存灯台で近代建設遺産に指定されている。



## ◇ 野外観察会「ダルマギク等の観察」

※雨は降っていなかったが、強風のため立っているのがやつの場所も多くあり、高齢の方や幼児もおられたので、最短コースに変更した。

- ・柱状節理……マグマが冷えて固まったもの。冷えて固まると縦に割れる。
- ・ダルマギク……他の植物との競争には負けるが、海水等の塩には強い。厳しい環境に自生することで、他の植物との競争を避けられる。  
白色、紫色の2種類が見られる。紫色の種の中でも薄い色と濃い色の2色が見られ、濃い紫色のものはとても貴重なもの。

- ・ ツノシマアザミ……固有種。通常のアザミより背丈が低い。  
(大きなものでも30～40cm程度)
- ・ その他観察した植物……カワラナデシコ、ハマボッス(種)、テリハノイバラ(実)、  
ハマヒサカキ、ハマゼリ、ハマナタマメ(実)



## (感想)

つのしま自然館や豊北町自然観察指導員会の小林氏、藤岡氏のご協力を得て、角島の自然環境についての学習や牧崎風の公園でのダルマガク等の観察を行った。

申込者45人のうちキャンセルは少なく、当日参加者もあり参加者は45人であった。

ダルマガクは、群生して咲いている箇所が減っているものの、初めてダルマガクを見る参加者は満足しておられた。

当日は小雨模様で、風が非常に強く、牧崎風の公園でのダルマガクの観察を最短コースにして、講座を切り上げた。折角、遠い角島まで足を運んでいただいた参加者の方には説明もゆっくり聞けずに、大変申し訳ないことになったが、天候の急変なのでやむを得ない。角島の講座には多くの方に参加いただいております、来年度以降も、全国一とも言われるダルマガクの群生地を観察会を開催したいと考えている。